

第1回我孫子市布佐中学校区の学校の在り方検討委員会 議事録

開催日時 令和4年7月25日 午前10時から正午まで

会 場 我孫子市水道局大会議室

出席者 委員12名（全員）、事務局9名（傍聴人5人（上限））

1 開会

（省略）

2 教育長あいさつ

（委員への謝辞省略）

現在学校は夏休みだが、7月10日頃からコロナの陽性が増え、7つの学級で学級閉鎖があった。新型コロナウイルス感染症発生以降、市としてはコロナ禍であっても行事や教育活動を即中止するのではなく、できることがないか考え、学校と連携して進めてきており、今後もこの考えを継続していく。

今年の始業式には、約60名コロナで欠席していたが、徐々に落ち着いてきて入学式や運動会等、感染症対策を行い実施することができたのが何よりも嬉しかった。

現中学生はコロナ前の中学校生活を一度も経験したことのない子供たちだが、今年は予定どおり修学旅行や林間学校へ行かせてあげることができた。子供たちの喜びの声も聞いてホッとしている。

新型コロナウイルス感染症発生から約2年半が経ち、この間に得た経験や知恵を駆使しながら生活することが大切だと考えている。特に子供たちには、基本的な感染の対策の徹底やマスクの着脱など、自分自身で判断できる能力を身につけてほしい。

この第7波もお盆頃がピークという報道があるが、2学期開始前にも各校長と連携しながら対応していく。

本委員会の冒頭に話しておきたいことがある。それは、現状の布佐中学校区3校に問題があるとか、児童生徒数が少ないことのみを理由に本検討委員会を設置しているわけではないということ。

校舎の老朽化や児童生徒数の減少があるが、児童生徒数が少なくなると当然教職員の配置数も少なくなる。ゆえに、クラブ活動や委員会活動、部活動の数も減少せざる

を得ない状況となり、子供たちの多様な教育活動を行うこともかなり難しくなってくる。

委員の皆様には、総合的に勘案していただき、子供たちにとって、今以上に学校生活が充実する教育環境のあり方を検討していただきたい。

布佐中学校区にある3校、布佐小学校、布佐南小学校及び布佐中学校の今後の学校のあり方について大きく3つのパターンがある。

- ①現状の3校のまま、児童生徒数の規模に応じた施設の大きさに建替える。
- ②隣接している布佐小学校と布佐中学校を一体型小中一貫校とし、布佐南小学校は現在地のまま規模に応じた施設へ建替える。
- ③布佐小学校、布佐南小学校、布佐中学校の3校を一体型小中一貫校とする。

大きくこの3つのパターンのそれぞれのメリット・デメリットや、これ以外のパターンがあればそちらも協議していただき、御提案いただきたい。

また他市事例や、布佐中学校区3校への現地視察も考えているため、要望等あれば事務局に伝えていただきたい。

なお、最終決定は令和5年度末（令和6年3月頃）を目途に我孫子市及び市教育委員会が決定する。

本日は事務局説明が中心になるが、忌憚のない意見等願います。

3 委員及び事務局紹介

（省略）

4 委員長及び副委員長の選出

（省略）

5 委員長あいさつ

立候補等無し。円滑な議事進行のため事務局より田中委員長、篠崎副委員長を推薦し承認を受けた。

6 事務局からの説明

ア これまでの経緯及び本検討委員会について

イ 我孫子市学校施設個別施設計画（概要版）

ウ 適正規模と学校のあり方について

エ 我孫子市小中一貫教育について

（別紙資料参照）

7 事務局資料についての質疑応答、協議

（委員長）教育長からあったとおり、決定権は市及び教育委員会にあるため、委員としては各立場からの意見を市へ情報提供していく感覚でよいのでは。ぜひとも積極的に意見交換、質疑をしていただきたい。

（委員）資料から2点。対象施設の一覧表の建築年度と年数はどのように見るのか。第2章の「学校施設を取り巻く現状」の例示が根戸小学校のため、布佐中学校区の3校があればよかった。

（総務課長）建築年度の見方は、その学校にある施設の中で一番古い建物の建築年度である。布佐小学校では最も古いものが昭和50年度建築。布佐南小学校は昭和58年度で、これは開校年と同じである。布佐中学校は昭和55年度建築となっている。

また、資料については抜粋であり、個別施設計画の全文には各校詳細があるため後日郵送する。

（委員）自分の出身校が以前に合併しており、3駅分にまたがる地区が合併した。その母校に行き校長と話す機会があったため共有する。合併によりミニバスで送迎するほど広い学区となったことで、育った環境が全く異なる子供たちが集まることになり、教育が難しくなった。しかし、各地区の子供たちが集まったことによって、地区間の連帯感ができて良かったという話を聞いた。

地域で布佐小学校の通学の様子を見ていると通学路が狭くて不安ということを聞くが、学校の入り口部分を拡幅する計画もあり、新しい校舎ができて安心して通えれば良いと思う。

（委員）令和3年度の保護者、地域住民説明会の参加人数は。また、地域住民説明会の回覧板が届いたのが当日になってからだったため、行きたくても行けない人がいたのでは。

(学校教育課長) 保護者説明会は3回合計54名。地域住民説明会は2回合計31名である。説明会の周知については、市ホームページや学校を通じての周知を行ったが、今後は早めの周知をより心がける。

(委員長) 地域の回覧板は特に遅くなる時もあるので、ぜひ御配慮願う。

(委員) 説明会には参加したが、確かに参加人数は少なかった。しかし、参加したい方、意見のある方はいると思うので確実に早く知らせるようにしてほしい。

今後は、アンケートで「わからない」と答えた人に対して、分かってもらうように広めていくのが委員の役割でもあると思う。本検討委員会の会議資料は事前に送付がありとても良かった。このような配慮を今後も行っていたきたい。

(学校教育課長) 御意見ごもつともである。本来は説明会後にアンケートを行う流れが、新型コロナウイルス感染症の影響もあって反転してしまった。その結果、分からないという意見が多くなったのでは。今後機会があるときは、早めの周知を行っていく。

(委員) 自身は転入者だが、子育てにおいて小規模校に魅力を感じた部分がある。3校一貫校としても大規模までにはならないと思うが、適正規模とはどのように決まっているのか。

(学校教育課長) 小学校について各学年2学級を適正規模としたのは、クラス替えによる環境の変化、人間関係の広がりを保障するため。中学校の各学年3学級については、中学校は教科担任制で9教科あるため、最低でも3学年×3学級で9人の教員が必要になる。さらに教員を増やすためにも、各学年3学級は必要と設定した。

(委員) 2点ほど。アンケートにて「わからない」とあるのは、市の計画やタイムスパンが不明で、保護者として自分の子供の成長段階に対するイメージがつかめないためでは。

2点目は、建替えの際にはハザードマップや地盤の状況などの要因や、今ある建物がハードとして継続使用できるのかという点について、情報提供してほしい。

(学校教育課補佐) 具体的なものについては、検討委員会での意見をいただき、令和5年度末を目途に決定することになっている。検討委員会としてのスケジュールは、今年度は全3回の協議に加え、要望があれば視察を行い、次年度は協議回数をさらに増やして意見を深めていただきたいと考えている。

(総務課長) 建物施設の情報については、先ほどの要望と合わせて後日郵送する。

(委員) 視察の際には、校内の様子だけではなく、通学時など学校を出入りするときの通行面の安全性などもみたい。

(委員) 我孫子市小中一貫教育について、目標とする子供像に「郷土愛、未来を拓く力、輝く心」とあるが、これらは特筆せずとも日々の教育のなかで基本となるものでは。

(指導課長) おっしゃるとおり。小中一貫教育は学習指導要領に基づいて行っており、つまり国や地域がこれまで脈々と行ってきた教育の姿そのものである。その中でも特に我孫子市として特化して言葉にしたものがこの3項目である。

(委員) 理想的でよいと思うが、形骸化しないよう、具体的に進めていってほしい。

(指導課長) 独自カリキュラムについて各中学校区で共有実践をしたり、職員研修を開催したりするなど、3つの目標を繋いでいけるよう取り組んでおり、今後も進めていきたい。

(委員) アンケートにある保護者意見の「南新木地区のほとんどが新木小への学区変更を希望するのでは」について。

市ホームページの学区変更の条件では兄弟がいる場合としているが、兄弟関係がなくとも南新木1-2丁目から新木小学校に学区外就学している家庭がある。その保護者に聞くと、単学級の布佐南小学校より複数学級の南新木小学校を選んだと言っていた。そのようなことは可能なのか。

(委員) 以前よりそういった学区変更の話があったと思うが、保護者の希望で変更できるものなのか。

(委員長) アンケートの件について、なぜ南新木地区の児童が南新木小を希望するのか、という理由について考えはあるか。

(学校教育課補佐) 原則として学区どおりの学校に就学することとしている。兄弟関係のある場合や、転居が絡む場合、通学の安全性についてなど、申請があった場合は総合的に検討して認めている。

(学校教育課長) 説明会の際にも同様の質問があったが、原則として学区どおりの就学としているが、個別に対応しなければいけないものもあり、一概に規定できるもの

でもなく、却下となった例もある。説明会の開催などで布佐中学校区の保護者には御心配をかけており、学区外就学の相談等増えると思うが、適切に対応していく。

（教育長）「南新木地区からの学区外を希望するのでは」という意見については、布佐南小学校が無くなって布佐小学校に統合され、通う距離が遠くなる（そのため布佐小学校より近い新木小学校を希望する。）というイメージが先行しているのでは。

（副委員長）各委員の意見を聞き思ったのは、アンケートにもあるとおり「わからない」というのが随分多いということ。これについては、本検討委員会の中でも工夫をして、丁寧に説明し、あるいは踏み込んでいき、何かを引き出せるとよいのでは。

私自身、以前に一体化型の校舎見学したときは、デメリットも当然あるのだが、メリットを非常に多く感じてきた。同じ地元の間人として一緒に協力をして、わからないという人を減らしていきたい。

（委員）保護者がもっとわかるようにするため、各校での懇談会後に説明会を行う等すればよいのでは。自分の子供が卒業してしまうし、関心が無い保護者も多い。多くの人に関心をもってもらうことが大切では。

（委員長）教育長が話したとおり、子供たちにとってどういう環境がより良いのかということのをベースに置いて進めていかなければと改めて思う。

学区についてもそうであり、保護者の理解という部分でもそうであるので、それらを踏まえて、教育長が示した3つのパターンについて、次回以降メリット・デメリットの検討をしていきたい。

8 事務連絡

（省略）

9 閉会

（省略）

（以上）

次回開催は10月から12月頃を予定しています。